

市長と学生が語る会～起業のすすめ～

平成 24 年 12 月 20 日（木）午後 6 時から、まちづくりセンターで「市長と学生が語る会」を開催しました。市と市内 4 大学（愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、愛知県立大学）で構成する長久手市大学連携推進協議会が主催し、市長が学生に期待することや起業への想いを語り、その後意見交換を行いました。



1. 市長講話「起業のすすめ」

* 要旨のみ掲載

- ・ 今日来てくれたみんなは、きっと見たもの聞いたことに対して受け流さずに何かを感じ取ってくれる「感度良好」な若者たちだと思う。
- ・ 世の中には面倒なことが山ほどある。例えば大学生なら、勉強・アルバイト・就職活動、社会人なら仕事や家事、子育てというように…。そして最近では、近所付き合いや結婚はおろか家庭内の会話も面倒と感じる人が増えている。男性女性問わず、恋人を作っていつかは結婚して、できれば子どもを育ててほしい。
- ・ なぜかと言うと、今までこの国では、人口が増え、経済が発展し、50 年間にわたって山の頂上を目指して突き進んできた。明治時代の文明開化から数えると、実に 150 年間ひたすら上を目指してきたことになる。頂上は一つしかないので、進むべき道は明らかであった。ところが、今は頂上に達し、すでに下り始めの時代に差し掛かった。日本の人口もピークを過ぎ、昨年だけでも約 20 万人減少している。だから子どもを産み育てるのは自分のためでもあり、日本の将来のためでもある。結婚を面倒くさがってはいけない。
- ・ 頂上から麓に下りるこれからの時代は、360 度どこを通っても正解の時代である。でもみんなは、どこを通れば良いのか分からないので苦しんでいる。これまでは学識者やコ

ンサル会社に任せておけばよかったが、先の道があるかどうか分からないのに、こうした人たちがばかりに相談してもあまり意味がない。先の道のことばかり考えることも大切だか、今のことを考えることも大切である。

- ・この長久手は、1万人から5万人にまで人口が増えた。この中には素晴らしい人がたくさんいるし、素晴らしい施設がたくさんある。しかし、これらの人やモノがバラバラの状態、人同士や施設同士をなんとかつなげたい。
- ・住民や施設をつなげるため、職員には、「もっとまちに出ろ！」と言っている。そこで何かを「感じ」、先進事例を見て学ぶために「どんどん出張しろ！」と言っている。日本のみならず海外にも行けと言っている。まず職員が行き、次は住民も連れて行けと言っている。そうして見聞きしたことをどんどん取り入れていけばよい。
- ・今日は「起業のすすめ」なので、リニモのことを題材に話をしたい。
- ・リニモは赤字である。赤字だからこそ、「幸い」何かをしなければならぬ。リニモに関して何か提案すれば何でも通る。
- ・私は、酒が好きだから、例えば駅に居酒屋をつくったらどうだろうかと考えている。酒を飲めば車を運転できないからリニモに乗るだろうという、ごく単純な発想。
- ・みなさんには、「市長のアイデアがこの程度ならもっと良いアイデアが出せる！」と感じてほしい。「感度良好！」。何かにつけ感じることでできる心の豊かさを持つことが一番。
- ・リニモは2分で各駅に行ける。つまり、リニモは実はビルと同じ。エレベーターに乗って次の階に行くのに、なんだかんだ言って同じくらい時間がかかる。
- ・みなさんが日本酒メーカーとコラボして運営し、経営者になればよい。愛・地球博記念公園駅の階は県大生が「空」を飲ませます、芸大通駅の階は芸大生が「義侠」を飲ませます…など単なる思い付きだが、名古屋から30分の距離で、若い学生が工夫しながら愛知の美味しい酒を飲ませてくれるというのは、名所の少ない愛知の新しい名所となって面白いのではないか。
- ・私は34、35歳で独立して、素人ばかり集めて雑木林の中に何も無い幼稚園をつくった。遊具もピアノも発表会もない。「遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生まれけむ」。雑木林を遊具にしてみんなと同じように遊べば、同じように楽しめる。だれが良くて誰が悪い、だれが優れていて誰が劣っているということもなく、自然からは排除される子もいない。もっと雑木林の遊び感覚のように生きていける世の中になれば良い。
- ・それからしばらく経った時、近くに古民家があり、老人がたくさん集まっていたので、今度はまたまた素人ばかりで老人ホームをつくった。そうしたら、老人の面倒を見るには国家資格があった方がよいということで、今度は介護福祉の専門学校をつくった。
- ・とにかく、下っていく時代に「採用してください！」ではなく、自分で仕事をつくったらどうか。
- ・長久手は、予算規模が50年前の1億円から今では250億円になった。一般会計だけ

でも 150 億円の規模である。まちのことは全部役所がやっている。だから、私は、地域の仕事を住民に戻して、地域のことは住民にやらせようと考えている。

- ・もはや時代は変わった。「早く」「正確に」の時代から、「ゆっくり」「遠回り」「失敗しても構わない」という時代になった。なにかをする時、大事なのは「結果」ではなく「過程」。ワイワイ、ガヤガヤ、ああだこうだ言いながら、失敗を繰り返しながら、いつの間にか人同士の「絆」はできていくものだと思う。
- ・広報ながくて今年度から市民記者制度を導入した。今後は、広報もこうした市民に全面的に委託してはどうかと考えている。
- ・また、審議会や会議、行事などへの参加を市民に呼び掛ける際、広報やホームページ、ケーブルテレビを通じて募集するが、応募してくるのはいつも同じ人ばかり。何か良い方法はないか？ 例えば、呼び掛け屋さんが出て、この人たちが 20、30 人ずつに声掛けをする。こうしたことも立派な仕事になるのではないか。
- ・この長久手には、たくさんの元気な高齢者がいる。そして、1 万人の学生がいる。これだけの人が、何かこの長久手でやれば間違いなく素晴らしいまちになる。
- ・役所の仕事だけでも、みなさんで十分やっていけることがたくさんある。採用され、人に使われるのではなく、この長久手で何かをしてみないか。やれることはいくつもある！なんでもできる！

2. 市長と大学生との意見交換



* 要旨のみ掲載

【学生】

- ・市長の話聞いて、リニモをみんなで経営してはどうかと思った。市長は自然を残さなければと言うが、この長久手は、リニモがあることでまだまだ人が住みつくことのできる最高の立地条件を持っている。でもリニモは料金が高い。桃花台線はダメだったが、リニモは絶対になんとかなる。みんなでなんとかなる。

<市長>

- ・神奈川県藤沢市の、ある普通のおばさんはNPOの仲間とファンドで100万円ずつ集めて、2ヶ月で1億円集めてマンションを建てた。今、2棟目を建てている。金利が安いので、おっしゃる通り、やる気があれば何でもできる時代である。

【学生】

- ・リニモ沿線11大学のすべてを行き来できる交流バスをつくりたい。学生から100円ずつ費用を集めて、市民も利用できるようにする。

<市長>

- ・面白そうだ！ぜひ企画書をつくってほしい！
- ・市でも福祉有償輸送を検討している。これは、喫茶店で暇をしている元気な老人たちが、移動に困っている人をガソリン代+500円程度で送り迎えする発想から生まれた取組。大学をつなげるバスの運行は面白いが、N-バスでも年間1億円かかる。1人100円では無理だ。1,000円は徴収しなければならないと思う。
- ・また職員から、住民の活躍の様子を映画にしてはどうかと提案があった。他の市では700

万円で作ったようだ。市では現在、地域のたまり場である地域共生ステーションをつくっている。これはゆっくりゆっくりと住民が議論を重ねている。市民まつりも、住民主導にしたが、抜きたい人は抜けても良いし、今年はダメになっても、また違う人たちがやっても良いと考えていた。とにかく、この映画の出演者はすべて住民だから、出演料はタダである。ただ、まだまだ住民が苦労して何かを生み出す題材が足りない。だからもっと考えなさい、と提案した職員に宿題を出している。

【学生】

- ・子どものころは、山や川で遊んで成長した。その遊びの経験は今の自分を形成している。どんな人と接してもあまり苦にならないのは、自然に接して大らかに育ったからだと思う。だから、30歳まで企業で働いてお金を貯め、その後は耕作放棄地を所有者と直談判してGETしたい。そしてそこを子どもの自由な遊び場にして、その片隅で大好きなトウモロコシ畑を栽培したい。

＜市長＞

- ・それも面白そうだ！君も企画書をつくりなさい！
- ・今、私は面白いことを考えている。それは、インターンシップ制度でみなさんに私の秘書をやってもらい、1年間くらいついてもらおうというもの。また、酒メーカーに2人くらいまわってもらおうとも考えている。特に秘書の件は、2月くらいからできないか、各大学と話を進めたい。

(ここで、進行役から「市長の秘書をやりたい人？」と尋ねたところ、大半の参加者が「やりたい！」「やりたい！」と挙手した。秘書業務で単位が取れるのかと尋ねたところ、参加者からは「単位はいらない！でもやりたい！」と発言があった。)

【学生】

- ・市長は、どうやって周りの人たちを巻き込んで色んなことをしてきたのか？

＜市長＞

- ・幼稚園をつくる時、とにかく勉強をする、ピアノに合わせて歌う、絵を描く、こうしたことを何もしない幼稚園をつくりたかった。また、老人ホームや福祉介護専門学校をつくる際には、藤田保健衛生大学や愛知医科大学など、色んなところに出かけて行って、とにかく自分の想いを2時間くらい語った。そうしたら、わざわざ何人もの人が給料の安い私のところに来てくれた。
- ・「今の世の中はこうだからこうしたい！」。そういう思いを語るとみんなが感動してくれる。今は心打たれるものがない。下りる時代だから、そういう想いを語ると、どこに下りれば良いかイメージが湧いてくるのか、みんな喜びを感じてくれる。
- ・いい言葉がある。みんなは「花と蝶」の歌を知っているか？「花が咲くとき蝶が飛ぶ 蝶

が死ぬとき花が散る」。花は無心で咲くし、蝶も無心で飛ぶ。花も蝶も咲く時期や飛ぶ時期をわざわざ考えて生きているわけではない。自然の摂理である。私たちも元々知り合っていたわけではないが、縁があってこうして知り合えた。だから、想いがあれば人は集まる。メールだけではダメ。想いが伝わらない。

【学生】

- ・大学と交渉し、ボランティアサークルを集めて各サークルの発表会を実施した。豊根村のめだかの会など、自分が知らないサークルもあり、とても参考になったし、こうした出会いの場はとても有意義だと思った。

<市長>

- ・そういう場はとても有意義だと思う。ただ、みんな発表する場が不足していると言う。例えば、葬儀場は友引の日なら空いているので、ここで年始に行う賀詞交歓会ができないかと考えているが、役所がやると酒も飲めないし堅い。ある住民にやってみてはと打診しているが、気軽に集まれる交流会を企画してほしい。
- ・役所で思いましたが、役所の審議会や会議は、進め方のシナリオがあって淡々と進むので面白味がない。こうした審議会の委員は男性の充て職ばかりで発言しない。女性ならピーチクパーチク色んなことを話してくれるので、もっと女性を増やしたい。とにかく住民にやってもらう、住民を応援する役所にしていきたい。

【学生】

- ・学生の交流拠点はだれが運営するのか。

<幹部職員>

- ・長久手古戦場駅にこれから整備する大学連携拠点のことだと思うが、運営主体や活動など、これからその仕組みをつくっていく。

【学生】

- ・私は、長久手市のような職場で仕事がしたい。でも、他の市役所で就職が決まってしまった。
- ・長久手のまちづくりが好きで、みんなが気兼ねなく発言できる長久手の風潮を就職する市役所に持っていきたい。

<市長>

- ・それなら、そこの市長に長久手に出向してもらえるように提案すれば良い。長久手は小さくて手頃なまちで、部下から見れば部長も課長も至って近い存在。
- ・役所は堅いからダメ！ 特に大きな市は融通がきかない。お役所仕事という言葉があるくらい。私も部下の言うことを聞かなければならいことが多々ある。もっと自由に生きなさい！

- ・職員は、とても真面目に一生懸命仕事をしているが汲々^{きゅうきゅう}としている。なぜなら、議会やマスコミ、住民は「あれが悪い」「これが悪い」と評論家のように文句やチェック、要望ばかりしている。もっと職員を褒めて倍の仕事をさせればよいのに、仕事をして公表すればするほど色々言われるので、職員は貝になってしまい悪循環を起こしている。
- ・学校の先生、保育園の保育士、病院の医師、老人ホームの介護士もみな同じである。保護者や家族から色々と言われるので、テンションが下がっている。
- ・それではダメなので、役所と住民の関係を、チェックから一緒にほめながら進めていく体制に再構築したい。
- ・失敗を許さない風潮が、子どもの自殺につながるし、みな汲々^{きゅうきゅう}と生活している。失敗も認めあえる世の中にしなければならない。

【学生】

- ・自由に生きるということを誤解してはいけない。自分の人生だから覚悟がいる。自分で自分の責任を持たないといけないと思う。その覚悟や責任の上に、行動の広がりや人とのつながりがある。
- ・今日はリニモ沿線合同大学祭実行委員が参加しているが、今の責任は大学祭を成功させることであって、何が成功かということはあるが、継続させるという来年のことは次に考えればよい。今やるべきことが大切。

<市長>

- ・そう意気込まなくても何とかなる。母親のおなかの中にいれば、ちゃんと目や耳ができてくるように…。気軽にやればよい。

【学生】

- ・市長はあいさつ運動をしているが、あいさつすると逆に不審者に思われてしまう。

<市長>

- ・私がいさつするのは、犯罪の多い社会なのでなんとかしたいという地域の要望もあって始めた。このまちは住民がバラバラなので、一声かけ合う地域にしたい。6月1日から始めて、毎朝8時前から役所の玄関であいさつしている。いつも職員にあいさつをしていると、不思議と一人ひとりがどういう性格か分かってくる。職員は、多分いつやめるのか考えているはずだ。
- ・7時30分に自宅を出て、歩いて出勤している。途中ですれ違うまちの人にもあいさつをする。最初は不審がられたが、今は気軽に声を掛け合うようになった。若い職員にも、「髪を切ったのか？似合うな」と言うと喜んでくれる。
- ・とにかく、せめて隣同士くらいは助け合えるまちにしたい。今日参加してくれたメンバーがまちでなにかやれば、結構まちは変わる。

【学生】

- ・私は他市の保育士に決まったが、なぜ保育士になったかというのと、とにかく虐待してしまう母親を助けたいから。あいさつを聞いて「これだ！」と思って心臓がバクバクしている。

<市長>

- ・保育士になるなら、自分で保育園を開業しなさい。市は、9月から空き家や空き室を利用した家庭的保育事業を始めたが、一人で5人の子どもしか面倒を見ることができない。でもそうしたニーズがたくさんある。絶対自分で開業した方がやりがいはあるはず。

【学生】

- ・私も感動で心臓がドキドキしている。私は目の前の人を大切にしたい。あいさつ運動で、相手も自分も日々変わっていく姿が見たい。

<市長>

- ・それなら明日から役所で一緒にあいさつしよう！住民も2~3人参加している。

【学生】

- ・これから就職活動をする。トップの考えを全社員が理解しているようなところに就職したいが、長久手市は全職員に市長の考えが浸透しているのか？

<市長>

- ・（後方で聞いている職員に向かって）「私の考えを理解し、仕事をしているか？」

<中堅職員>

- ・幸い、市長と接する機会が多い部署にいるため、市長の考えは理解しているつもり。ただし、我々は頭が固いので、市長の言うことをどう形にしていけば良いかを考えると、すぐに行動に移せない部分もあり、そうした点では、正直戸惑いもある。

<若手職員>

- ・市長から職員への講話があったり、外での講話もすべてではないが大体は理解しているし、勉強している。

<市長>

- ・こうした会以外でも、外での講話などはホームページの市長の部屋「如是我聞」で見ることができるので、ぜひ見てほしい。

【学生】

- ・リコモの居酒屋に大変興味を持った。地域の活性化にもつながると思った。
- ・障がい者の母親でつくったグループに話を聞く機会があった時に、障がい児は義務教育以降になると、進路が限定されてしまうので、例えば、居酒屋で学生とともにそうした

障がい者も一緒に働ければ素晴らしいと思った。

- ・また、障がい者が田んぼで収穫したものを居酒屋で料理するのはどうか？

<市長>

- ・すでに、かわせみ工房という団体がそうした取組みを行っており、活動も広がっている。
- ・障がい者の活用と言う点では、例えば公共施設の受付業務を任せるという方法も考えられる。

【学生】

- ・ぜひ将来居酒屋がやりたい。

<市長>

- ・感度良好で結構だ。ただ、特に女性に言いたいのは、女性の初婚が30歳に到達してしまっただけで、仕事も大いに頑張っていたかきながら、面倒くささから恋人をつくって、自分とこの国の将来のためにいつかは結婚して子どもを産み育ててほしい。

【学生】

- ・私は田んぼが好きで、毎年収穫した米で餅つきをして振舞っている。みんながそうした収穫物を持ち寄って気軽に料理できる場がほしい。

<市長>

- ・地域共生ステーションの1号店は場所が決まり、今は地元の人たちが協議しているが、2号店以降は未定であるため、ぜひそこにキッチンもつくればよい。このまちにも空き家や空き地がきっと増えるので、そうした物件をなんとか色々なことに活用したいと考えている。
- ・そうした空き物件は所有者や近所の人にも嫌がるので、一軒一軒回ってそうした物件を見つけ、何かのためになることに使えればよい。そうした仕組みを作りたいが、役所ではなかなかやりづらいようだ。良い仕組みをだれかに企画してほしい。

<市長>まとめ

- ・とにかく、採用が決まった人も、ただ単に就職するのではなく、せっかく一度きりの人生なのだから、自分で何かすることを見つけてほしい。会社は自分がいなくても回っていく。そんな道よりも、自分で切り開いていく方が絶対面白いはず！
- ・今日は面白いアイデアをいくつか聞かせてもらった。段取り良く企画提案書も用意しているようなので、ぜひドシドシ企画してほしい。